

令和4年度
ひきこもり・不登校に関する実態把握調査報告書

令和5年9月1日

社会福祉法人 鳥栖市社会福祉協議会
学校法人 佐賀龍谷学園 九州龍谷短期大学

1 調査目的

本調査は、鳥栖市で活動されている民生委員・児童委員を対象にひきこもり等の概数等を把握し、鳥栖市社会福祉協議会において事業展開を検討していくための基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査概要

調査対象： 鳥栖市民生委員・児童委員

調査方法： 鳥栖市の民生委員・児童委員にアンケート調査票を配布し、回収

調査期間： 令和4年9月上旬から令和4年10月上旬のおよそ1ヶ月間

回収率：

| 調査対象者数 | 有効回収者数 | 有効回収率 |
|--------|--------|-------|
| 144人 | 108人 | 75.0% |

※ 調査対象者数は、令和4年9月1日現在の民生委員・児童委員の人数

【参考】ひきこもりの定義について

厚生労働省では「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせずに、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態」を「ひきこもり」と呼んでいます。（厚生労働省政策レポートより）

本調査では、ひきこもり・不登校の期間や、対象者の年齢は定めていません。本人、家族、周囲の方等がお困りの状況で支援が必要と考えられる人を対象としています。

3 調査結果

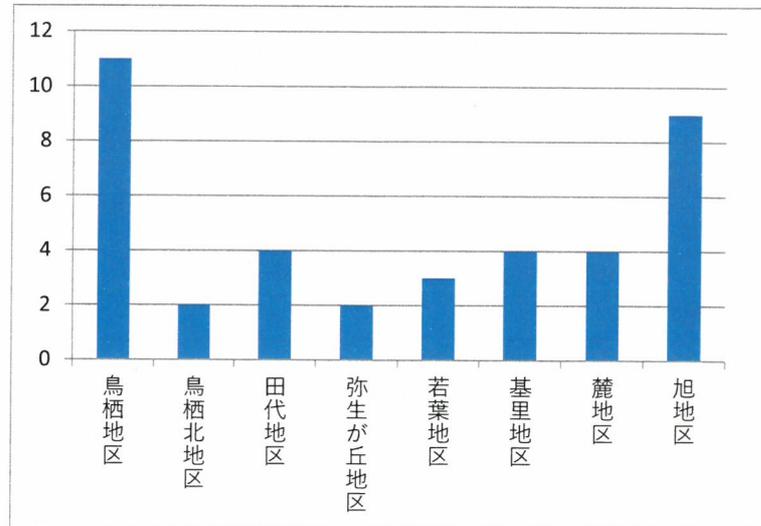
総括票：問1 あなたが担当する地区に、現在ひきこもり・不登校の人はいますか。

| | いる | いない | 分からない |
|--------|----|-----|-------|
| 鳥栖地区 | 6 | 6 | 12 |
| 鳥栖北地区 | 2 | 1 | 8 |
| 田代地区 | 3 | 2 | 6 |
| 弥生が丘地区 | 2 | 1 | 3 |
| 若葉地区 | 3 | 2 | 9 |
| 基里地区 | 3 | 4 | 9 |
| 麓地区 | 3 | 3 | 2 |
| 旭地区 | 8 | 2 | 8 |
| 鳥栖市全体 | 30 | 21 | 57 |

今回の調査結果で担当する地区に、ひきこもり・不登校の人がいると回答した民生委員・児童委員は30名でした。（割合＝27.8%）

総括票：問1-2 あなたが担当する地区に、現在ひきこもり・不登校は何人いますか。

| | 人数 |
|--------|----|
| 鳥栖地区 | 11 |
| 鳥栖北地区 | 2 |
| 田代地区 | 4 |
| 弥生が丘地区 | 2 |
| 若葉地区 | 3 |
| 基里地区 | 4 |
| 麓地区 | 4 |
| 旭地区 | 9 |
| 鳥栖市全体 | 39 |



ひきこもり・不登校の状態を把握できている人数は39人でした。また、人口当たりの該当者の割合は、0.05%（鳥栖市公表の人口74,475人[令和4年9月末現在]）でした。

総括票：問2 ひきこもり・不登校の人の支援で困っていることはありますか。（複数回答可）

| | 困りごとはない | かかわりを断られている | 一人で抱えきれないと感じる | ひきこもり・不登校に関する知識や支援方法が分からない | どこに相談していいか分からない | 相談したが、十分に対応してもらえなかった | その他 | 合計 |
|--------|---------|-------------|---------------|----------------------------|-----------------|----------------------|-----|----|
| 鳥栖地区 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 4 | 8 |
| 鳥栖北地区 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 田代地区 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 5 |
| 弥生が丘地区 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 3 |
| 若葉地区 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 |
| 基里地区 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 麓地区 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 5 |
| 旭地区 | 1 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 3 | 10 |
| 鳥栖市全体 | 9 | 5 | 8 | 4 | 1 | 1 | 12 | 40 |

「困りごとはない」と回答した民生委員・児童委員は9名で、「ひきこもりの人がいる」と回答した民生委員・児童委員の30%となり、「かかわりを断られている」「一人で抱えきれないと感じる」等、民生委員・児童委員が活動を行う中で対応に苦慮している回答が、その他を含めて7割に上る結果となりました。

また、その他では、「学校で相談の場を持った子どもがいる」、「長い間、関わっているが、近隣住民から苦情の相談がある」、「インターネットで仕事をされているかもしれないので下手に話題にできない」などの回答がありました。

総括票：問3 ひきこもり・不登校に関する支援であなた自身の活動や社会福祉協議会に必要と思われるものを教えてください。(複数回答可)

| 区分 | 人数 | 割合 |
|--------------------------------------|-----|-------|
| 個別的就かつ長期的に訪問等でひきこもり・不登校の人やその家族にかかわる | 31 | 28.7% |
| 関係機関同士の情報の共有や連携強化 | 46 | 42.6% |
| 支援する側の知識・スキル向上のための研修会の実施 | 28 | 25.9% |
| 身近なひきこもり・不登校相談窓口を設置し、その窓口を広報する | 32 | 29.6% |
| 家族の人への支援の充実 | 28 | 25.9% |
| 家族同士が気軽に集まり何でも話せる居場所 | 27 | 25.0% |
| ひきこもり・不登校の人同士が気軽に集まれる居場所 | 33 | 30.6% |
| ひきこもり・不登校の自立に向けた生活訓練や社会復帰訓練ができる場の充実 | 33 | 30.6% |
| ひきこもり・不登校に関して一般住民への正しい理解と知識の普及 | 27 | 25.0% |
| 不登校の子どもへの支援を充実させて、ひきこもり状態に移行しないようにする | 32 | 29.6% |
| その他 | 6 | 5.6% |
| 計 | 323 | — |

ひきこもり・不登校に関して関係機関同士の情報の共有や連携強化が42.6%と最も高い回答となりました。また、ハード面では、ひきこもり・不登校の人同士が気軽に集まれる居場所(30.6%)や生活訓練・社会復帰訓練ができる場の充実(30.6%)も求められています。

個別票：問1 該当する人の性別を教えてください。

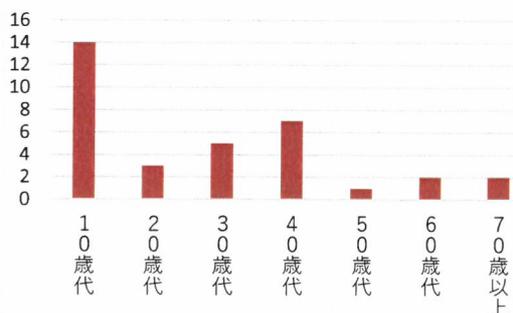
| 区分 | 人数 | 割合 |
|-----|----|-------|
| 男性 | 21 | 55.3% |
| 女性 | 12 | 31.6% |
| 不明 | 1 | 2.6% |
| 未回答 | 4 | 10.5% |
| 計 | 38 | - |

ひきこもり・不登校の状態にある人の性別について、「男性」は21人(55.3%)、「女性」は12人(31.6%)となっており、男性は女性の約1.8倍でした。

個別票：問2 該当する年齢を教えてください。

| 区分 | 人数 | 割合 |
|-------|----|-------|
| 10歳未満 | 0 | 0.0% |
| 10歳代 | 14 | 36.8% |
| 20歳代 | 3 | 7.9% |
| 30歳代 | 5 | 13.2% |
| 40歳代 | 7 | 18.4% |
| 50歳代 | 1 | 2.6% |
| 60歳代 | 2 | 5.3% |
| 70歳以上 | 2 | 5.3% |
| 未回答 | 4 | 10.5% |
| 計 | 38 | - |

ひきこもり・不登校の人の年齢



ひきこもり・不登校の状態にある人の年齢について、「10歳代」が14人と最も多く、次いで「40歳代」が7人、「30歳代」が5人となっています。

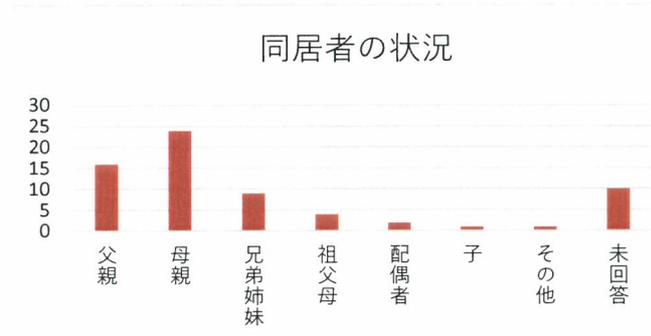
個別票：問3 問2の方に同居者はいますか。

| 区分 | 人数 | 割合 |
|-----|----|-------|
| いる | 28 | 73.7% |
| いない | 4 | 10.5% |
| 不明 | 0 | 0.0% |
| 未回答 | 6 | 15.8% |
| 計 | 38 | - |

同居者の有無について「いる」が28人、いないが4人となりました。

個別票：問4 同居者がいる場合その人はどなたと一緒に住んでいますか。(複数回答可)

| 区分 | 人数 | 割合 |
|------|----|-------|
| 父親 | 16 | 57.1% |
| 母親 | 24 | 85.7% |
| 兄弟姉妹 | 9 | 32.1% |
| 祖父母 | 4 | 14.3% |
| 配偶者 | 2 | 7.1% |
| 子 | 1 | 3.6% |
| その他 | 1 | 3.6% |
| 未回答 | 10 | 35.7% |
| 計 | 67 | — |



同居者の内訳(家族構成)について、「母親」が85.7%と最も高く、次いで「父親」が57.1%、「兄弟姉妹」が32.1%となりました。

個別票：問5 その人の状況を教えてください。

| 区分 | 人数 | 割合 |
|------------------------------|----|-------|
| 自室からほとんど出ない | 3 | 7.9% |
| 自室からは出るが、家からは出ない | 7 | 18.4% |
| 普段は家にいるが、近所のコンビニ等には出かける | 9 | 23.7% |
| 普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事の時だけ出かける | 3 | 7.9% |
| その他 | 6 | 15.8% |
| 不明 | 5 | 13.2% |
| 未回答 | 7 | 18.4% |
| 計 | 40 | — |

ひきこもり・不登校の状態にある人の状況について、「普段は家にいるが、近所のコンビニ等には出かける」が23.7%と最も高く、次いで「自室からは出るが、家からは出ない」が18.4%となりました。また、「その他」では「登校したときは、支援学級でゆっくり過ごしている」、「登校するがすぐ帰宅する」、「デイサービスには行っている」などの回答がありました。

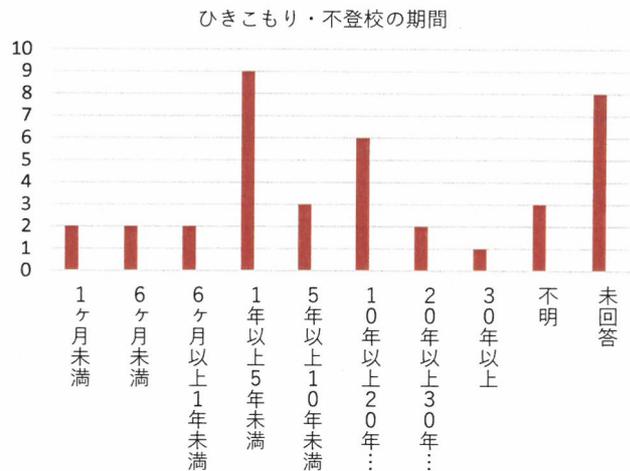
個別票：問6 あなたがその人の存在を知ったきっかけを教えてください。(複数回答可)

| 区分 | 人数 | 割合 |
|--------------|----|-------|
| あなた自身の訪問等の活動 | 7 | 18.4% |
| 民生委員・児童委員協議会 | 7 | 18.4% |
| 近所からの情報・相談 | 11 | 28.9% |
| 本人・家族からの相談 | 9 | 23.7% |
| 学校からの情報 | 4 | 10.5% |
| その他 | 10 | 26.3% |
| 未回答 | 4 | 10.5% |
| 計 | 52 | — |

ひきこもり・不登校の状態にある方の存在を知ったきっかけについて、「近所からの情報・相談」が28.9%と最も高く、次いで「本人・家族からの相談」が23.7%、「あなた自身の訪問等の活動」が18.4%となりました。「その他」では「登校時間以外に制服ではない服装でかけているのを見た」、「近所で就職されたという話を聞かない」、「対象者の母親の兄弟から聞いた」などの回答がありました。

個別票：問7 その人のひきこもっている期間、不登校の期間について教えてください。

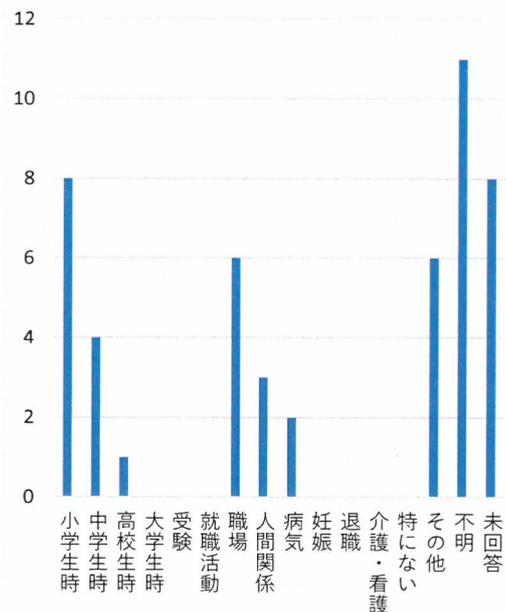
| 区分 | 人数 | 割合 |
|------------|----|-------|
| 1ヶ月未満 | 2 | 5.3% |
| 6ヶ月未満 | 2 | 5.3% |
| 6ヶ月以上1年未満 | 2 | 5.3% |
| 1年以上5年未満 | 9 | 23.7% |
| 5年以上10年未満 | 3 | 7.9% |
| 10年以上20年未満 | 6 | 15.8% |
| 20年以上30年未満 | 2 | 5.3% |
| 30年以上 | 1 | 2.6% |
| 不明 | 3 | 7.9% |
| 未回答 | 8 | 21.1% |
| 計 | 38 | - |



ひきこもっている期間について、「1年以上5年未満」が23.7%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」が15.8%、「不明」が7.9%となりました。

個別票：問8 その人がひきこもり・不登校になったきっかけを教えてください。(複数回答可)

| 区分 | 人数 | 割合 |
|----------------|----|-------|
| 小学生時の不登校 | 8 | 21.1% |
| 中学生時の不登校 | 4 | 10.5% |
| 高校生時の不登校 | 1 | 2.6% |
| 大学生時の不登校 | 0 | 0.0% |
| 受験に失敗した | 0 | 0.0% |
| 就職活動が上手くいかなかった | 0 | 0.0% |
| 職場に馴染めなかった | 6 | 15.8% |
| 人間関係が上手くいかなかった | 3 | 7.9% |
| 病気 | 2 | 5.3% |
| 妊娠 | 0 | 0.0% |
| 退職 | 0 | 0.0% |
| 介護・看護をすることになった | 0 | 0.0% |
| 特にない | 0 | 0.0% |
| その他 | 6 | 15.8% |
| 不明 | 11 | 28.9% |
| 未回答 | 8 | 21.1% |
| 計 | 49 | - |



ひきこもりになったきっかけについて、「不明」「未回答」を除くと「小学生時の不登校」が最多の21.1%、次いで「職場に馴染めなかった」が15.8%となりました。「その他」では、「母親の過干渉」、「母親の他界」、「離婚」、「高齢による体の不自由さ」などの回答がありました。

個別票：問9 その人の支援の状況について教えてください。(複数回答可)

| 区分 | 人数 | 割合 |
|--------------------------------|----|-------|
| 福祉サービスを受けている | 1 | 2.6% |
| 医療機関等の支援を受けている(通院など) | 3 | 7.9% |
| 行政機関等の支援を受けている(市、社会福祉協議会、保健所等) | 2 | 5.3% |
| 法人等民間事業の支援を受けている | 2 | 5.3% |
| 支援を受けていない | 7 | 18.4% |
| わからない | 16 | 42.1% |
| その他 | 5 | 13.2% |
| 未回答 | 9 | 23.7% |
| 計 | 45 | — |

個別票：問10a 現在、その人はどのような支援を求めていると考えられますか。(複数回答可)

| 区分 | 人数 | 割合 |
|-----------|----|-------|
| 相談機関へのつなぎ | 1 | 2.6% |
| 居場所の紹介 | 2 | 5.3% |
| 就労に向けた支援 | 2 | 5.3% |
| その他の支援 | 2 | 5.3% |
| 不明 | 24 | 63.2% |
| 未回答 | 8 | 21.1% |
| 計 | 39 | — |

ひきこもり・不登校の状態にある人への支援策として必要と思うものについて、「不明」が63.2%と最も高く、次いで「居場所の紹介、就労に向けた支援、その他の支援」が5.3%となりました。「その他の支援」では、「訪問による支援」、「配偶者との連携」、「通いの場での勉強」などの回答がありました。

個別票：問10b 現在、同居家族はどのような支援を求めていると考えられますか。(複数回答可)

| 区分 | 人数 | 割合 |
|-----------|----|-------|
| 相談期間へのつなぎ | 8 | 21.1% |
| 居場所の紹介 | 3 | 7.9% |
| 就労に向けた支援 | 4 | 10.5% |
| その他の支援 | 3 | 7.9% |
| 不明 | 16 | 42.1% |
| 未回答 | 10 | 26.3% |
| 計 | 44 | — |

ひきこもり・不登校の状態にある方の同居家族への支援策として必要と思うものについて、「不明」が42.1%と最も高く、次いで「相談機関へのつなぎ」が21.1%、「就労に向けた支援」が10.5%となっています。「その他の支援」では、「子どもを通した近所への対応」などの回答がありました。

※回答数の誤差について

総括票：問1-2でひきこもり・不登校の人は39人と結果が出ているが、個別票の提出数は40人。その40人の内2人分は、1つの個別票に2名分回答している等の理由で欠損処理をしている。その為、38人分の結果が得られている。

4 今後の方針

・総括票の結果について

本会では、今回の総括票の結果をもとに、関係機関との連携強化を図ることで居場所づくりや生活訓練・社会復帰訓練ができる場の創設を検討してまいります。

なお、令和4年2月から毎月1回開催している家族交流会の周知を強化し、参加者の拡充と内容の充実に努めてまいります。

また、ひきこもりや不登校に関する講演会を実施することで、一般市民への理解を促進し、支援を必要とされる人とのつながりづくりを進めてまいります。

・個別票の結果について

本会では、自立相談支援機能強化事業として鳥栖市からアウトリーチ(訪問による支援)事業を実施しているため、支援を必要とされる人及び関係機関に事業の周知を図り、相談を受け付け、本人や家族の意志にもとづき訪問し状況を伺う等、対象者に合わせたサポートを行い、支援を拡充してまいります。

今回のアンケート結果をもとに、行政や関係機関との協議、連携を図ることで居場所づくりや生活訓練・社会復帰訓練ができる場の創設を検討してまいります。

